



## 所長あいさつ 現代教育研究所所長 友野清文

昭和女子大学現代教育研究所は2014年11月に、押谷由夫先生のご尽力により、本学の6番目の研究所として発足しました。それ以来、所員(大学教員)と研究員(学内外からの公募等)が、研究グループやプロジェクト活動を通して、様々な活動を進めてきました。その成果は研究所紀要や各種の資料で報告を行っています。

現代教育研究所は、こども園から大学院までを擁する本学園の特色を最大限に活かし、乳幼児教育・初等中等教育に関する諸問題について研究・実践を行う場として、教育に関わる多様な人が集うハブとなることを目指します。そして教育課題に対する提案を行っていきます。今後とも大学内外の方々のご支援をお願い申し上げます。

## オープンラボ2019 REPORT OF OPENLAB

教育研究公開セミナー「対話する学校～持続可能な研修と知の形成について～」として、現代教育研究所・奈良女子大学附属中等教育学校・私立岩倉高等学校の連携により、2019年8月25日(日)に開催しました。

セミナーのねらいは、私立学校や国立大学附属学校での校内教員研修のあり方を提案することです。特に校内研修を本当に教員にとって有益なものとすると同時に、できる限り負担の少ない形で継続できる(持続可能な)ものにする方策を提案しました。今回は、研修を受ける側を巻き込んで企画・運営・実施をすること(岩倉高校の実践)と、一方的な講義ではなく、じっくりと対話をする中で互いに学び高め合うこと(奈良女子大学附属中等教育学校の実践)を核にした研修として企画しました。

セミナーは、基調講演とグループワークの2部構成で行いました。

基調講演は、松井晋作氏(桐蔭学園トランジションセンター専任講師)の「高大接続を意識したSDGsの取り組み」と、神徳圭二氏(奈良女子大学附属中等教育学校)の「地域へ、そして全国へ～ラウンドテーブル型



松井晋作氏



神徳圭二氏

研修の試み～」で、全体への問題提起を行いました。

グループワークは、各グループ(原則4名)で、事前に示していたテーマ(「コミュニティにおける自身の立場で大事にしている想い・実践していること」)についての話し合いを行いました。1人が約15分でテーマについて語り、それに受けてグループ内で意見を出し合いました。事前に資料を準備してきた参加者もあり、職場などでの取り組みや課題、悩みについて話し合われました。

なお当日の参加者は、約30名で。小中高大の教員、企業・塾などの関係者、私学団体職員・NPO法人運営者等、多彩な顔ぶれでした。(文責:友野)

## コア・プロジェクト REPORT OF CORE PROJECT

## Co-Creative Learning Session in SHOWA 2019

現代教育研究所がおくる昭和女子大学中等部×昭和女子大学のコラボ・プロジェクト「Co-Creative Learning Session 2019」略してコクリは【医をめぐる知の冒険】で「心ワクワク、ディープな学び」を合言葉にコクリ・ジェネレーター青木と緩利がメンバー43名と【中学生21、高校生14、大学生8】と学びの冒険を開始しました。キックオフのミッションは「医」をトピックにニュースショーを作成。「むくみ」「頭痛」「肩こり・腰痛」「胃腸不良」「ドライアイ」などを取り上げキャスター・インタビュアー・専門家になりきることで、医の世界への興味を広げていきました。

今年度からコクリは総合的な学習の時間（火曜日5・6限）とスペシャルセッションで構成。専門家のセッションから刺激を受け、メンバーの医の冒険は進みます。

## 【1. 目指せ、健康美人！！】

肩こり・腰痛・胃痛・片頭痛と、カラダの悩みがいっぱいの中高生のために、コンディショニング・マスター、田中美穂先生（世田谷区保健センター）のレクチャーとワーク。

## 【2. 画像診断と代謝～がん発見のメカニズム～】

梶村真弓先生（慶應義塾大学）は、CGを駆使して「エネルギーの源、ATP」や「がん発見のメカニズム」をレクチャー。

## 【3. 良い睡眠は、なぜ大切？～睡眠とメンタルヘルス～】

「睡眠」のスペシャリスト駒田陽子先生（明治薬科大学）が「睡眠負債と社会的ジェットラグ」をレクチャー。

## 【4. 光源氏「最近、体の調子が悪いなあ。お寺行くか」はなぜなのか？～文学と医学のクロスオーバー～】

古典文学のフロントランナー中野貴文先生（東京女子大学）は糖尿病の藤原道長が頼った「陰陽道」から「病草子」まで古典文学と医学の新しい「まなざし」をレクチャー。

## 【5. 植物って薬？～ココロとカラダを自分で守りたい～】

かつて製剤研究に取り組んでおられた藤田真理子先生（北海道大谷室蘭高等学校）の「私の気になる生薬・漢方薬」についてグループワークを行い薬への関心をインスパイヤー。

## 【オーガニックコスメ・ワークショップ～私のバスソルト～】

吉田真希先生（山野美容芸術短期大学）の、オーガニックコスメ・香りと歴史のレクチャーをベースにして私だけのアロマバスソルトづくりに挑戦。



トピック・問い・ゴール設定・調査方法、プロジェクトデザインを練った後は、実験・調査など検証ワークを開始です。

最後に、生徒たちが取り組んだコクリの冒険のプレゼンテーションを紹介します。

- 1：アロマの出番です～香りで勉強効率UP？～
  - 2：知っておきたい遺伝子組み換え  
～遺伝子組み換え作物のメリット・デメリットって？～
  - 3：ドライアイ、侮ると危険です  
～しっかり瞬きしてますか？～
  - 4：音楽と記憶の関係、これが真実です！  
～音楽聴きながら勉強、大丈夫？～
  - 5：目指せ、免疫力アップ～風邪にきく食べ物って？～
  - 6：見かけはJK、中身はアラフォー  
～美肌対策大丈夫？～
  - 7：あなたの味覚が危ない！  
～味覚感度は鍛えて育つ？～
  - 8：ストレートネック予防・プレミア体操  
～あなたの肩こりスマホが原因では？～
- 教師：エキシビジョン 風の電話～緩和ケア病棟から～

「楽しい、おもしろい、考える、仲間、経験」、コクリの冒険を終えた生徒たちの言葉は、「ポップでディープなコクリの学び」を目指した私たちを喜ばせ、次の冒険をドライブする力をくれたのです。

（文責：青木）





## Leaders Academy 2019 【水と生きる～今私たちができること～】

坂東眞理子理事長・総長主催の学科横断型オーナーズクラスLeaders Academy 2019は、「Be Creative!!」を合言葉に「水をめぐる」探究をキックオフ。水ジャーナリスト橋本淳司さんのレクチャーにインスパイアされたメンバーは「気候変動と水問題」「私の家に流れる水はどこから、どこへ?」「食べ物・衣服のむこうにある水」など様々な「トピック」を見つけ、「問い」を練ります。「水のかしこい使い方、プチ工夫も積もれば川になる?」「見え



ない水もオフしてアップサイクル、地球と健康にやさしい食事とは?」「どうせ着るなら地球にカッコよく、「水」問題について服は何を語りだす?」「あなたの暮らしに雨水を!文化を彩る雨水のポテンシャルはいかに?」4チームに分かれ自分たちで決めた問題に取り組みました。「Ethical」を共通キーコンセプトにリサーチワーク・フィールドワークを重ねたメンバーたちの「水の冒険」は、次のラインナップで2月7日に成果発表をしました。

### 1：アクアコンシャスラボ

「水と防災～生き残るために必要なこと～」

### 2：フードラボ「子どもたちと考える、見えない水の大切さ」

### 3：雨水ラボ「雨とともに生きる～雨水利用の最前線～」

### 4：ファッションラボ

「Who made your clothes? How were your clothes made?」

命の源でもある「水」への挑戦は、これからも続きます。

(文責：青木)

## グループ活動報告： GROUP ACTIVITY REPORT

表現教育グループ2019年度の活動は、プロジェクト「表現教育による〈深い学び〉の検証」の2年目を迎え、音楽、美術、演劇、舞踊(ダンス)を統合したパフォーマンス・アーツの制作実演を一層パワーアップして、活動に新しい方向と広がりを見出すことに集中しました。

今年度のテーマは「アジアの伝承文化に発想を得たオリジナル作品を創る」です。4月当初の研究所員・研究員の顔合わせから積極的に意見交換し、11月の秋桜祭(大学祭)でインドの説話集「ジャータカ」を下敷きにした寓話劇を制作・上演することに決定しました。まず5月に早田研究員がインドの伝承文化に関するレクチャーをグループメンバーに向けて行い、それを受けて久米研究員がオリジナル脚本「やさしい森の歌」を書き下ろしました。

実際に演技・演奏するのは研究所所員の木間・早川・永岡ゼミに所属する3年生17名。夏期休暇明けの10月から本格的な稽古に入り、木間・永岡が音楽・音響の制作と演奏を指導、早川が舞台正面に菩提樹を配した幻想的な舞台装置を制作、さらに河内研究員と教え子の世田谷学園中学校・高等学校美術部員たちがプロジェクトに参加して、インドの文様にヒントを得たユニークな仮面や人形を制作しました。

11月からの立ち稽古では久米研究員の演出指導にも熱が入り、学生たちに厳しい声も飛びました。グングル(インドの鈴)を両手足首に巻いて創作ダンス「菩提

樹の精」を披露したTさん、心優しい月のウサギを演じたKさん、孤独なオオカミOさん、観客との橋渡し役である子ザルを演じたKさん。皆、本番直前まで熱心に稽古を重ね、見事に演じてくれました。また、木間・永岡ゼミの面々もインドの民族楽器ハルモニウムや手打ちの太鼓に果敢に挑戦し、インドの旋法を用いたオリジナル楽曲を演奏しました。



大学祭当日は、8号館2階の一教室に舞台を設置して、3回の公演を行いました。館山市の小学生40名が観劇に訪れた他、昭和女子大学附属校の子どもたち、卒業生、家族連れの方々など、多くの方に楽しんでいただき、大好評のうちに幕を閉じました。その舞台制作と上演の詳細については、後日、論文や冊子などの成果物としてまとめていく予定です。(文責：永岡)

## グループ活動報告: GROUP ACTIVITY REPORT

## 理科教育研究グループ

10月16・17日、タイから来日する視察団6名の学校訪問をコーディネートしました。タイの団長Dr.Janchai Yingprayoonは、



理科教育の国際的な学会 ICASEの理事で、Suan Sunandha Rajabhat 大学の先生です。

16日午前、私立健伸幼稚園(船橋市)を訪問しました。到着してすぐに園児がチアリーディングのダンスで歓迎してくれました。その後、園の施設見学をしました。世界中の園を見学して参考にした工夫が随所に見られました。それらの多くは機能的なだけでなく、子どもの思いや願いをかなえる仕掛けに満ちていました。

午後は、読売教育賞優秀賞を受賞したばかりの私立成城学園初等学校の新校舎で理科の授業を見ました。積み木で作ったやぐらに風を当てて、どうしたら倒れない構造にできるか競っていました。防災教育につながる内容です。

17日午前、昭和女子大学初等部のマルチメディア室でICTを駆使した英語の授業と、中高部理科室で離島の発電をシュミレーションするサイエンスコースの実験実習を見ました。午後は世田谷区の公立小学校の授業を自由に見せてもらいました。同行した日本のメンバーにとっても大変勉強になる見学ツアーになりました。

見学者の一人、Ms. Jannapa Klompongはタイで幼稚園建設中とのことで写真を見せてもらいました。広大な敷地におとぎ話に出てくるような、色彩豊かで夢のある建物が建っていました。経済成長期にあるタイの学校の先生方にとって一番興味があったのは学校の設備ではなく、我が国の教育方法でした。特に子どもたちにプロジェクトを与えて話し合いながら取り組ませていた健伸幼稚園の教育に深く感銘を受けたようでした。

理科教育研究グループの所員である白数は、12月2~6日にDr.Janchaiに招かれてタイで開かれたICASE国際学会に出席しSTEM教育の理論と実践について発表を行いました。発表を聞いていたタイ、マレーシア、シンガポール、中国の方々と情報交換をして各国のSTEM教育の実情について知ることができました。世界の理科教育はSDGs(持続可能な開発目標)の理解と実践へと向かっていて、教科横断的な学びを創発しようとする強い意志が見られました。また、21世紀型学力の育成、ICTの活用、認知科学に基づいた教員研修の在り方に関心が集まっていました。一方で、どの国にも知識偏重に陥りやすい状況があり、Artと工学の要素を通常の授業にどのように組み込むかについては検討が必要な様子でした。

12月14日(土)と1月11日(土)に昭和女子大学を会場に成果報告を行い、両日あわせて28人の参加がありました。(文責:白数)  
(なお、本研究はJSPS科研費JP19K14210の助成を受けたものです。)

## 発行物案内 GROUP ACTIVITY REPORT



### 教育課題研究グループ 『EduMate vol.4』: 昭和女子大学教職課程研究報

【特集】  
これまでの教育/これからの教育  
(道徳教育/公民科教育)

教育の最新事情  
ブラック校則と不登校

専任が語る  
・英語教育をめぐる雑感  
・「謎のベストセラー」、教科書を問い直す  
・七夕読書会をめぐる冒険

学校探訪  
私立 山脇学園中学校・高等学校

ご希望の方は研究所までお問い合わせください



### 英語教育研究グループ 『これからの小学校英語教育法-改訂版-』

概論から実践活動までコミュニケーション教育としての英語教育の方法についてまとめています。



### 理科教育研究グループ 『科学大好きな子供を育てる vol. 3』

教育現場で活躍中の教員執筆による小学校理科教育の実践報告等を多数掲載しています。

